

登録コード	L2532100	開講年度	2026				
担当教員	田所 朱莉			副担当			
授業科目	英語文学特論Ⅰ						
英文授業名	Literature in EnglishⅠ						
授業タイトル	アメリカ文学史Ⅰ（小説を中心に）						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・3時限
講義室	人文第5講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2026Lカリ，2025Lカリ，2024Lカリ						
	【2023年度以降対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			⇔	アメリカ文学史の概要を理解し、基礎的な作品を読解することによって、初歩的な研究ができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	アメリカ文学（主に小説）の軌跡を概説します。時代を特徴づけた主要な作家を通して、文学史の流れを概観するとともに、アメリカ社会・文化の諸相を照射するメディアとして、文学作品を捉え、時代とともに変遷する文学の流れと問題意識の考察を進めていきます。それにより、歴史や社会、文化事情への理解も深めていきます。また、思索力と批判力を養成するために、特定のテーマについての発表、もしくは小レポートの作成を課します。詳しくは、履修人数に鑑みて決定します。 次年度開講の「英語文学特論Ⅱ」でアメリカ文学史（演劇）を取り扱います。						
授業計画	第1回：授業オリエンテーション 第2回：植民地時代（1607-1776）コットン・マザー、ジョナサン・エドワーズ、ベンジャミン・フランクリン 第3回：独立期から南北戦争まで（1776-1865）①ラルフ・ウォルドー・エマソン、ヘンリー・ディヴィッド・ソロー、ワシントン・アーヴィング、ジェイムズ・フェニモア・クーパー 第4回：独立期から南北戦争まで（1776-1865）②エドガー・アラン・ポー、ナサニエル・ホーソーン、ハーマン・メルヴィル、ウォルト・ホイットマン、エミリー・ディキンソン 第5回：南北戦争後から第1次世界大戦まで（1865-1917）①マーク・トウェイン、ヘンリー・ジェイムズ、ウィリアム・ディーン・ハウエルズ 第6回：南北戦争後から第1次世界大戦まで（1865-1917）②ケイト・ショパン、シャーロット・パーキンズ・ギルマン、イーディス・ウォートン 第7回：南北戦争後から第1次世界大戦まで（1865-1917）③ステイーヴン・クレイン、フランク・ノリス、セオドア・ドライサー 第8回：Review and Discussion①（受講生による研究発表） 第9回：第1次世界大戦後から第2次世界大戦まで（1917-1945）①ウィラ・キャザー、ガートルード・スタイン、シャーウッド・アンダソン、スコット・フィッツジェラルド、アーネスト・ヘミングウェイ 第10回：第1次世界大戦後から第2次世界大戦まで（1917-1945）②ウィリアム・フォークナー、ジョン・スタインベック 第11回：第2次世界大戦後（1945-）①ノーマン・メイラー、ジェームズ・ジョーンズ、J.D. サリンジャー 第12回：第2次世界大戦後（1945-）②ユードラ・ウェルティ、カーソン・マッカーラーズ、フラナリー・オコナー、トルーマン・カポーティ、リチャード・ライト、ラルフ・エリソン 第13回：第2次世界大戦後（1945-）③バーナード・マラマッド、ソール・ベロー、トニー・モリソン、アリス・ウォーカー 第14回：Review and Discussion②（受講生による研究発表） 第15回：全体のまとめ、授業アンケート 期末試験有り。 授業進度などは、変更することがあります。詳細は第1回目の授業で説明するので、必ず出席してください。						
成績評価の方法	各回のコメントシート10%、発表もしくは小レポート40%、期末試験50%によって総合的に評価します（受講生の数によって調整します）。						
成績評価の基準	評価ポイントは、①基礎知識を身につけたかどうか、②思索力と批判力を身につけたかどうかの2点です。以上2点を、各回で提出するコメントシート、発表もしくは小レポート、期末試験を通して評価します。卓越した基礎知識を持ち、分析ができれば90点以上、優れていれば80点以上、ややすぐれていれば79～70点、標準的なら69～60点の評価になります。						
事前事後学習の内容	授業計画にあわせて、毎週予習復習をかかさずおこなってください。 授業前には、その週に取り上げる範囲の教科書を熟読してください。該当範囲の教科書を読んでいる前提で授業を進めます。 また、"Review and Discussion"で発表もしくは小レポートを課しますので、日頃から、自らの考察を書き留める、調べものをするなどして、準備を進めてください。 授業後には、教科書を再読、講義内容を復習するなどして、理解を深めてください。						

履修上の注意	履修希望者は、必ず初回の授業に出席してください。 なるべく次年度開講予定の「英語文学特論Ⅱ」も続けて履修してください。 「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」により、欠席し、補充を受けた場合を含み、欠席回数が5回を超えると、授業の達成目標に到達することができないため、単位が認定されません。 「学生は、履修する授業の全ての回に出席することを基本とする」（信州大学における授業の出席に関する要項）ので、やむをえない事情がない限り、すべての授業に出席してください。「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」による欠席については、規定の申出書による申し出があれば、学修の補充を行います。 なお、他の学生に成り代わり授業に出席又は代返等の行為を行った者並びに同行為を依頼した者は単位を認定しません。出席が確認できた場合も、同日のコメントシートの提出がない場合は、欠席とみなします。試験や発表／レポートで不正行為を行った者に対しても、単位を認めません。また、30 分を超える遅刻は欠席としてあつかい、遅刻3回で欠席一回分としてみなします。 一部、オンデマンド／Zoomを用いたオンライン授業で実施する場合があります。
質問、相談への対応	授業後もしくはオフィスアワーに対応します。直接研究室を訪問せず、事前にメールで連絡してください。実際の対応は研究室以外（電子メールでやZoom等を用いたオンライン等）で行うことがあります。メールアドレスは人文学部履修案内に掲載されています。また、初回授業でもお知らせします。
教科書	諏訪部浩一編『アメリカ文学入門』〔新版〕（三修社、2023年）978-4-384-06032-4 C3098 ※教科書を必ず持参してください。
参考書	別府恵子・渡辺和子編著『新版アメリカ文学史—コロニアルからポストコロニアルまで』（ミネルヴァ書房、1989年） 杉野健太郎編『アメリカ文化入門』増補改訂版（三修社、2023年5月） Stephen Matterson. American Literature: The Essential Glossary. Baldick, Chris. Oxford Concise Dictionary of Literary Terms. 3rd ed. Oxford UP 川口喬一/岡本靖正編『最新文学批評用語辞典』、研究社、1998年 The Norton Anthology of American Literature. Shorter 10th edition.